

令和6年度「伝統工芸の匠」プロフィール

- 1 産地 越中福岡の菅笠
- 2 氏名 なかやま たかし こううん
中山 孝志 (煌雲)
- 3 生年月日 昭和51年1月10日生 48歳
- 4 勤務先 高岡民芸株式会社(高岡市麻生谷403)
- 5 略歴等



- ・平成27年 「越中福岡の菅笠製作技術保存会」主催の育成講座に参加
- ・平成28年 「匠の技術」継承支援事業を活用し、笠骨づくりの中嶋尋之氏に師事
同時期に笠縫いやスゲ生産についても学び、約3年で一通りの技術を習得
- ・平成29年3月 第3回菅笠コンテスト新人賞 「小雪」
- ・平成29年9月 高岡クラフトコンペティション2017 奨励賞 「六方」
- ・平成30年3月 越中福岡の菅笠製作技術保持者認定
- ・平成30年6月 第24回高岡市民美術展入賞 「平成の御車山(八方一文字)」
- ・平成30年9月 高岡クラフトコンペティション2018 地域特別賞 「菅紐」
- ・平成30年10月 富山プロダクツ選定「六方」
- ・令和3年9月 高岡クラフトコンペティション2021 入選 「菅畳」

現在

越中福岡の菅笠製作技術保存会理事(令和3年～)

高岡市主催「菅笠づくり後継者育成講座」笠骨づくりコース講師(令和元年～)

菅笠製作技術継承者審査委員会審査委員(令和5年～)

越中福岡スゲ生産組合副組合長(令和4年～)

スゲの生産、笠骨作り、笠縫いまで一貫で生産・販売(産地では2社のみ)

高い技術力を生かして後継者育成のための教室を開催

6 越中福岡の菅笠の概要

富山県高岡市福岡地区では江戸時代から菅笠の生産が行われている。小矢部川の氾濫で沿岸一帯が泥沼化し、スゲ草が自生し、そのスゲ草でみの蓑を作ったところ、軽くて上品であったことから評判になり、村の副業として菅笠作りに発展した。本格的に産業化されたのは加賀前田家 5代当主 まえだつなのり前田綱紀の保護と奨励を受けた江戸中期から。

幕末に最盛期を迎え、元治元年(1864)には210万枚の笠の出荷記録がある。

昭和30年代までは年間100万枚を上回る出荷数だったが、大量生産品の流通や生活様式の変化等で出荷数は著しく減少した。

こうした状況の中でも、良質の地元栽培のスゲ草を活かした高い生産技術は今も守り受け継がれ、平成29年に伝統的工芸品産業の振興に関する法律に定める伝統的工芸品として認定された。全国一の菅笠産地として9割のシェアを誇っている。

【中山氏作品】



菅笠 「六方」



菅笠 「平成の御車山（八方一文字）」



菅笠 「煌雲 CANVAS」



鎌倉パスタ 店舗照明



Suge_Lamp 「丸」



高岡民芸株式会社
煌雲ウェブサイト

<https://takaokamingei.co.jp/ko-wn/>